召喚師の受難

氷上 格子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

召喚師の受難

【Nコード】

N6207Q

【作者名】

氷上 格子

【あらすじ】

異世界において真理に体得し、神の御前へ辿り着くことに成功した魔法使い・グース
その功績によって神から生前の業を許され、新たなる人生を歩むことを権利を得る

そして、天上の御座から導かれたその先は、異世界・リアルフェム
確かにその世界にも魔法はあったものの、しかし、自らが修める魔法とは体系のまったく異なるものであり、なおかつ、なぜか10代にまで若返っていて……

Prologue : 灼原に消える遺志

「ついに、ついに！ ついにっ！！ この私は真理へと到達した！
」

刹那のうちにその身を焦土へと変えた原野。

もと雄大であった風景はただ荒涼とした大地の記憶に沈み、最早炭となった低木のみがその面影を残す。

そこに佇むのは一人の男。

「ああ、神よ！ 幾千の魔法をその身に刻み！ 幾万の呪詛をその髄に注いだ！ 我が肉体を祝福したまえ！」

傍らには黒い猫と巨大なる”手”。

異形を従えたその姿は黒く、型崩れ、人の身に非ざる不吉さを湛えた悪魔そのものであった。

男は語る。

「今なら貴方のその御身すら我が世界に取り込んでみせよう！」

どこまでも嬉しげなその表情は直前に起きた惨劇をまるで忘却してしまっただかのようだ。

事実、彼は全てを記憶の地平線の彼方へと追いやり、自らの軀と知識と、そして真理を受け入れたその精神を労っていた。

この焦土が広がるその前、虐殺された子供達と非道なる盗賊共、間に合わなかった彼自身の無力さ、

その全てを『今この時は』と言わんばかりに忘れ去り笑っていた。

しかし、甘美なる忘却の美酒は長くは酔えない。

「ああ、ただ惜しむらくは時間が今は残されていないことか。もう少し、ほんの1時間ばかりこの身に刻とぎが残されていなければ、或いはかの貴き身を我が命の前に召喚し、あの不遇なる子らを救うことができたかもしれないのに」

酔いの醒めた眼で彼は辺りを見渡したが、何も無い。

当然だ。何も救えなかったのは彼。全てを焼き払ったのも彼。救済をしくじった英雄もどきが受けるのは苛酷にして正当なる罰。彼には最早、何も残されてはいなかった。

「真理をこの身に宿し、世界と同一になれたというのに。やれやれ、汚染がここまで進んでしまえば意味はない。

肉体は魂と同じかたちをしているという。ならばこの腐った肉は、魂まで腐敗しきった私の人生を象徴しているというわけか」

溜息を漏らす、彼。

彼の言葉どうりその肉体は、腐食が進み、今にも崩れんとしていた。

「死の間際に真理を体得し、神の御前にすら到る確信を持てたというのに。

これでは道化と変わらん。まったく、やってられんよ。なあ」

隣でその身をすり寄せる黒猫へと話しかける。

彼の魔力の底が尽きかけているのか、ただ、にゃお、としか鳴かない黒色の生物はその言葉に首を傾げるような仕草をした。

「もってあと10分といったところか。

いやはや、真理を魂に刻むと共に、自我すらもそこに取り込んでしまった。

ここからの地獄は苦痛だな。バラされても直されても変質できない自己では
死後永劫に及ぶとされる労役に音を上げて壊れることすらできんだらう。

フッフ、楽しみだ。この人でなしの魂、悪魔共よ、存分に鬨るがいい」

先ほどの狂った笑みとは変わって、人生は既に楽しみ尽くした、とでもいうかのように闊達に笑い、そして、思考はある可能性に至る。

「いや、ちょっと待て。

神の御前に上がるのに、わざわざこちらに来てもらう必要はない。別に現世に顕現して貰わなくとも、神に会う手段はある」

そこで、ニヤリと笑って、おおよそ人とは思えないその着想を呟いた。

「こちらから、出向けばいい」

その言葉に、黒猫、そして、無言を貫き通していた”手”すらもビクリとその身を震わせた。

「神がこちらに間に合わない、というならば、こちらから参上するのが道理。
むしろこちら、汚れたこの現世に来て貰おうというのが無礼ではないか。

肉を持った人では決して辿り着けぬという天上、神の御座。幸いにして、我が魂は真理を刻むことによってそれのみで形を成すまでになった。

ならば、このまま悪魔共に常しえに飼い物にされるのみの運命だといふのならば、魂に残された執念しじがによって神に会ってやるうではな
いか。
フッフ、きつと悪魔共にもいい土産話になるだろう」

そして、体中に最後の魔法、これ以上ない程に複雑な紋様の陣を纏わせる。

構成された魔法は送還魔法。この世ではない地へと繋ぐ、虚構の魔術。

そこで、ふと思いついたかのように黒猫に優しい笑みを浮かべる。

「ああ、そういえば、お前には随分と長く付き合ってもらったな。何時からか着いてきていたお前だが、お前と二人でいる間は誰とい
るよりも心が安らいだよ。

じゃあ、お別れだ。結局、名を訊くこともできなかった黒猫の悪魔よ。
地獄むじうで会うことがあったら、お手柔らかに頼むよ」

黒猫は、驚いたように眼を見開く。恐らく、悪魔であるとばれて
いるとは思わなかったのだろう。

その反応に満足げに頷くと、男の視界は徐々に黒く塗りつぶされ、
そして自らの魔法の光が意識を攫さらって行った。

荒野には一匹。

”手”はいつの間にか消え去り、そして、黒猫は鳴き声一つ残して地平線へと歩いていった。

Prologue : 灼原に消える遺志（後書き）

とりあえずプロローグだけ書いてみた。
多分ほったらかしにする。期待しないで

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家なるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6207q/>

召喚師の受難

2011年2月6日19時14分発行